

国語科（国語総合）学習指導案（例）

日 時	平成○年○月○日（○） 第○校時
学年・組	○○科 第○学年○組（男子○名、女子○名）
教科書	「国語総合」（○○出版）
指導者	○○高等学校 教諭 ○○○○

1 単元名 唐詩（「春暁」「送元二使安西」「涼州詞」「静夜思」）

2 単元の目標

- （１）文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとする。 （関心・意欲・態度）
（２）文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。 （読む能力）
（３）訓読のきまりなどを理解する。 （知識・理解）

3 単元の指導観

（１）生徒の実態

漢文においては、１学期に基本事項を学んで以降、故事成語（２編）、寓話（２編）、唐詩（４首）と読み進めてきた。現在（３学期）、生徒は訓読の基本はおおむね理解している。使用している教科書に語注が丁寧に付けられているせいか、自ら漢和辞典を使って語句の意味を調べる生徒は少なく、大半の生徒は、教科書の語注を見るだけで満足してしまっている。学習態度は比較的良好であるが、主体的に学ぼうとする姿勢が不足している。

（２）教材観及び指導の方針

唐詩は比較的平易であり、語句を手がかりにして描かれた情景や心情を味わわせる教材として適している。

上記（１）の実態を鑑み、授業では、生徒に漢和辞典を使わせ、語句を手がかりにして主体的に詩を味わわせる学習活動を取り入れていく。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
①詩に描かれた情景や心情を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、詩に表現された内容を考える手がかりにしようとしている。	①詩に描かれた情景や心情を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、詩に表現された内容を考える手がかりとしている。	①漢詩を読むことに役立つ訓読のきまりや語句、漢詩のきまりを理解している。

5 単元の目標を実現するために取り入れる言語活動

詩に描かれた情景や心情をグループで話し合い、クラス全体に発表する。

6 単元の指導計画と評価計画

次	時	学 習 活 動	評価規準との関連	評価方法
1	1	・ 4 首の詩を、追いかけて読みや斉読を繰り返しながら読む。 ・ 詩の印象を表す一語をそれぞれ考え、ノートに書く。 ・ 詩の印象を表す一語について、周囲の生徒と意見交換をする。 （ペア→クラス全体） ・ 自分が一番気に入った詩を選ぶ。		
2	2 （本時）	〔 前時で各自があげた「一番気に入った詩」をもとに、生徒を 8 のグループに分けて展開する。グループごとに 1 首を担当させる。2 グループに同じ詩を担当させる。〕 ・ 担当する詩について、「漢詩のきまりに関すること（形式、押韻、対句など）」「用字法・句法に関すること」「詩に描かれた情景や心情」を A 3 の白紙 3 枚にまとめる。	読む能力① 知識・理解①	記述の点検、記述の確認
3	3 4	・ 詩についてまとめたことを、グループごとに発表する。 ・ 発表グループと聞き手の生徒とで、詩についての質疑応答をする。 ・ 全グループの発表終了後、それぞれの詩に表現された内容を表すコピーを一文で考え、ノートに書く。また、なぜそのようなコピーにしたのか、その理由もノートにまとめる。（個人）	関心・意欲・態度①	記述の分析

7 本時の指導計画

(1) 本時の目標

- ・ 詩に描かれた情景や心情を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、詩に表現された内容を考える手がかりとする。(読む能力)
- ・ 漢詩を読むことに役立つ訓読のきまりや語句、漢詩のきまりを理解する。(知識・理解)

(2) 本時（第2時）の展開

	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準・評価の方法
導入 5分	前時までの学習内容の復習と本時の目標の理解 ①詩4首を全員で斉読する。 ②教師の説明を聞き、本時の目標とグループ学習の進め方を確認する。	○グループは、第1時で生徒各自があげた「一番気に入った詩」をもとにして、3～4人を目安に教師が編成しておく。	
展開 40分	担当する詩についてのグループ学習 ③自分のグループが担当する詩について、「漢詩のきまりに関すること（形式、押韻、対句など）」「用字法・句法に関すること」を確認し合う。 ④「詩に描かれた情景や心情」を話し合う。 ⑤話し合いの結果を、A3の白紙3枚にまとめる。	○グループに分かれて着席させる。 ○文法書、漢和辞典を使用させる。 ○漢和辞典を使用させる。 ○「詩に描かれた情景や心情」を話し合う際には、どの語句を手がかりとしてそのように考えたのかも確認させる。 ○2枚の用紙には、黒マジックで詩を白文で大きく書かせる。その際、字が小さくならないように、1枚に2句ずつ書かせる。また、赤マジックで「漢詩のきまりに関すること（形式、押韻、対句など）」や、「用字法・句法に関すること」を書き込ませる。 ○もう1枚の用紙には、詩に描かれた情景や心情を簡潔にまとめさせる。その際には、手がかりとした語句も用紙に書かせる。	知識・理解① 「漢詩のきまりに関すること（形式、押韻、対句など）」や、「用字法・句法に関すること」を正しく示している。 (A3の紙への記述の点検及び記述の確認) [努力を要するグループへの指導の手立ての例]: 文法書や漢和辞典で調べさせる。 読む能力① 語句を手がかりにして、詩に描かれた情景や心情を考えている。 (A3の紙への記述の点検及び記述の確認) [努力を要するグループへの指導の手立ての例]: 詩に描かれた情景や心情を考えるにあたり、手がかりになると思う語句をあげさせる。また、その語句を漢和辞典で調べさせる。
まとめ 5分	次時の学習内容の確認 ⑥次時の予告を聞く。	○今回まとめた資料（A3用紙3枚）を使って次時にグループごとに発表を行うことを確認させる。	

8 資料等（具体例省略）

地理歴史科（地理B）学習指導案（例）

日 時	平成〇〇年〇月〇日（ ） 第〇校時
学年・組	〇〇科〇年〇組（〇名）
教 材	教科書名(出版社名) 資料名(出版社名)
指 導 者	教諭 〇〇〇〇

1 単元 「アングロアメリカ」

2 単元の目標

地図や統計などを活用して多面的・多角的に構造や変容を考察し、世界の産業、経済、文化などをリードするアメリカの特色や世界の国々や地域に大きな影響を与えていることを理解させるとともに、地誌的に考察する方法を身につける。

3 単元の指導観

(1)指導観

生徒にとって身近なアメリカを取り上げ、産業、経済、文化など多くの面で世界をリードしている理由を考察させるとともに、アメリカ国内に抱える諸問題や世界に与える影響について多角的・多面的に考察させたい。

(2)生徒の実態 [略]

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
アングロアメリカの自然、産業、文化に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	世界をリードするアメリカの農業や工業の特色を自然環境や社会環境を踏まえ多面的・多角的に考察している。また、アメリカに見られる地域的特色や地球的課題について考察している。	アメリカの自然、産業について学習に役立つ情報を適切に選択して地図や統計を読み取ったり、グラフや地図を作成している。	アメリカの自然、産業、文化などについて、歴史的背景を踏まえた地域の変容や構造を理解し、その知識を身に付けている。

5 単元の指導計画（4時間）

時	学 習 内 容	評 価 規 準
1	1 アメリカの移民と開拓 2 多様な自然環境	【知識・理解】 ・アメリカの移民と開拓について歴史的背景を踏まえて理解している。 【資料活用の技能】 ・教科書や地図帳からアメリカの地形や気候区を正しく読み取っている。
2	3 アメリカの農業 4 アメリカの鉱工業	【資料活用の技能】 ・アメリカの農業や工業の統計を読み取ったり、気候区と比較した農業地域の地図を作成したりしている。 【知識・理解】 ・アメリカの農業と鉱工業の特色と課題についての基礎知識がある。
3 (本時)	5 アメリカの都市問題	【資料活用の技能】 ・大都市の立地の特色を読み取ったり、統計をもとに階級区分図を作成したりしている。 【知識・理解】 ・アメリカの都市構造の変化と都市問題の特色を理解している。 【思考・判断・表現】 ・アメリカの都市問題を発展途上国の都市問題と比較して多面的・多角的に考察している。
4	6 世界と結びつくアメリカ 7 カナダ	【思考・判断・表現】 ・アメリカが政治、経済など多方面で国際社会に与えている影響を考察している。 【関心・意欲・態度】 ・アングロアメリカの自然、産業、文化に対する関心が高まっている。

6 本時の目標（第3時）

- (1)大都市の立地の特色を読み取ったり、統計をもとに階級区分図を作成したりする。
 (2)アメリカの都市構造の変化と都市問題の特色を理解し、発展途上国の都市問題と比較して多面的・多角的に考察する。

7 本時の指導

	学 習 内 容	学 習 活 動 [使用教材等]	指導上の留意点	評 価 [評価方法]
導入 5分	本時の学習内容の紹介	・世界経済の中心地であるニューヨークにスラムがあることを知る。		
展開 40分	都市の分布	・地図帳を参考にワークシートの白地図に人口100万以上の都市を記入する。 ・教科書の図を参考に、州別人口に占める人種の割合をワークシートの白地図に図示する。 [教科書p〇、ワークシート3] ・農業地域の区分と工業地域の分布などからわかったことをワークシートに記入する。 [ワークシート2、ワークシート3]	・図の見方と作図方法を説明する。 ・適宜、机間指導により支援する。 ・隣接する国や歴史的背景に気付かせるようにする。	【資料活用の技能】 ・大都市の立地の特色を読み取ったり、統計をもとに階級区分図を作成したりしている。 [ワークシート3、観察]
	都市構造の変化と都市問題	・アメリカの都市構造の変化と都市問題を考察し、理解する。 ①モータリゼーションの発達による人口分布変化について ②インナーシティ問題について [教科書p〇、ワークシート4] ・アメリカの都市問題を発展途上国の都市問題と比較して考察したことをワークシートに記入する。	・生徒を指名し、記入した内容を発表させる。 ・先進国と発展途上国の都市問題の相違に気付かせる。 ・生徒を指名し、考察したことを発表させる。	【知識・理解】 ・アメリカの都市構造の変化と都市問題の特徴を理解している。 [発問、ワークシート4] 【思考・判断・表現】 ・アメリカの都市問題を発展途上国の都市問題と比較して多面的・多角的に考察している。 [発問、ワークシート4]
まとめ 5分	本時の学習のまとめ 次時の予告	・都市問題についてまとめる。	・ドーナツ化現象、スプロール現象、ヒートアイランド現象などに言及する。	

数学科学習指導案（例）

I 単元の指導計画・評価計画

1 単元名 図形と計量「三角比」

2 単元の目標

- ・直角三角形の辺の比と角の大きさとの間の関係として鋭角の三角比の意味を理解するとともに、相互関係について理解し、その有用性を認識する。
- ・三角比を鈍角や 0° 、 90° 、 180° の場合まで拡張する意義と、鈍角の三角比の考え方を理解する。また、鈍角までの三角比についての相互関係を扱い、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求めることができる。

3 単元観

中学校では、基本的な平面図形と平行線の性質、図形の合同、図形の相似、円周角と中心角、三平方の定理、空間図形の基本的な性質と基本的な計量について学習している。また、数学 A において、三角形の性質、円の性質、作図など平面図形と、空間における位置関係、多面体など空間図形の基本的な性質について学習している。特に、中学校における図形の相似、三平方の定理等は、本単元の学習との関連が深い。しかし、中学校までは、角の大きさと辺の長さの関係を利用して計量することはない。本単元では、角の大きさと辺の長さの間の関係を考察し、理解を深めさせることが重要となる。

本単元では、直角三角形の辺と角を結び付ける鋭角の三角比の意味を理解させるとともに、その相互関係について生徒自らが気付けるような授業の展開を心がける。その際、身近な事象とも関連付けてそれらの意味を理解させる。また、三角比の相互関係を用いて、三角比のいずれか一つが決まれば、他の三角比の値を計算できることを理解させる。

また、三角比を鈍角や 0° 、 90° 、 180° の場合まで拡張する。その際、鈍角の三角比の定義を一方的に示すのではなく、数学的活動を通して、鈍角の三角比を帰納的に定義できるようにするなど、その考え方を重視した授業展開を心がける。その上で、鈍角までの三角比についての相互関係を扱い、生徒の図形の見方や考え方が豊かになるようにする。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
(A1) 直角三角形の辺の比と角の間の関係に関心をもち、その関係を三角比の記号で表そうとしている。 (A2) 三角比の相互関係について関心をもち、それらを直角三角形の計量に活用しようとしている。 (A3) 鈍角の三角比に関心をもち、座標平面を利用することの意味を考えようとしている。	(B1) 図形の相似の考え方をういて、直角三角形の辺の比を角との関係で捉えることができる。 (B2) 三角比の相互関係について考察することができる。 (B3) 鋭角の三角比を、座標を用いて鈍角に拡張することについて考察することができる。	(C1) 直角三角形や座標平面を用いて考えられる計量の問題を、三角比の記号を用いて表現し処理することができる。 (C2) 鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求めることができる。 (C3) 三角比の相互関係を用い、与えられた三角比の値から残りの三角比の値を求めることができる。	(D1) 正弦、余弦及び正接を直角三角形の辺の比と角との関係として理解し、基礎的な知識を身に付けている。 (D2) 鈍角まで拡張した三角比の意義を理解している。 (D3) 三角比の相互関係について理解し、基礎的な知識を身に付けている。

5 単元の授業計画（学習活動と評価規準とのかかわり）

時 間	学 習 活 動	評価規準とのかかわり	評価方法
第1時間	鋭角の三角比の定義 ・直角三角形の辺の比と角の大きさの関係について考察する。 ・正接、正弦、余弦について定義	(A1) (B1)	ワークシート、質問紙、机間指導により、直角三角形の辺の比と角の大きさの関係についての考察の状況を確認する。
第2時間	三角比の表と三角比の応用 ・三角比の表の構造を考察し、三角比の表を用いて三角比の値を求めたり、三角比の値から角の大きさを求めたりする。 ・身近な事象の考察に三角比を活用する。	(C1) (D1)	ワークシート、小テスト、机間指導により、三角比の表についての考察の状況や、三角比を活用した問題の解決状況について確認する。

時 間	学 習 活 動	評価規準とのかかわり	評価方法
第3時間	三角比の相互関係 ・ 直角三角形、三角比の表を用いて三角比の相互関係について考察する。 ・ 三角比の相互関係を活用して、与えられた三角比の値から残りの三角比の値を求めたり、図形的な意味を考察したりする。	(A2) (B2)	小テスト、机間指導により、三角比の相互関係についての考察状況や三角比の相互関係を活用した問題の解決の状況を確認する。
第4時間 本時	円を用いた三角比の定義（鈍角の三角比の定義） ・ 角を連続的に変化させることにより、三角比の定義を座標平面上に拡張する。 ・ 座標平面を用いた三角比の定義	(A3) (B3)	ワークシート、質問紙、発問の受け答えから、定義の拡張についての発想の状況を確認する。
第5時間	三角比の値と $180^\circ - \theta$ の三角比 ・ 座標平面を用いた三角比の定義を活用して求めた三角比の値について考察する。 ・ 点の対称性から三角比の値の性質について考察する。	(C1) (C2) (D2)	ワークシート、小テスト、机間指導により三角比の値の求め方、性質の考察の状況を確認する。
第6時間	三角比の相互関係 ・ 座標平面を用いた三角比の定義を活用して、三角比の相互関係について考察する。 ・ 三角比の相互関係を活用して、与えられた三角比の値から残りの三角比の値を求めたり、図形的な意味を考察したりする。	(B2) (C3)	小テスト、机間指導により、三角比の相互関係についての考察状況や三角比の相互関係を活用した問題の解決の状況を確認する。
第7時間	直線の傾きと正接、問題演習 ・ 三角比の他の分野への応用として直線の傾きと三角比の関係を考察する。 ・ 総合的な問題演習に取り組む。	(C1) (D3)	小テスト、質問紙、机間指導から三角比についての基礎的な内容の理解の状況を確認する。

6 生徒の実態

(1) 本単元を学習するにあたっての生徒の基礎学力（小テスト等の結果を踏まえて）

- ・ 図形の学習に対する苦手意識が高く、特に証明など論証能力が身に付いていない生徒が多い。
- ・ 数学A「図形の性質」における学習を通して、平面図形、空間図形の性質に関する基礎的な知識の定着は図られている。
- ・ 相似な三角形に関する計量問題、三平方の定理に関する計量問題については、概ね定着が図られている。
- ・ 小テストの結果
中学校までの学習内容（相似な図形、三平方の定理）の正答率 78.3%
数学A「図形の性質」（平面図形、空間図形）の正答率 73.4%

(2) 数学の学習に対する生徒の興味・関心及び学習態度

- ・ 数学を演繹的に学ぶよりも、操作活動等を多く取り入れた授業の方が、意欲的に取り組むことができる
- ・ 演習等は指示をすれば意欲的に取り組むが、自分の考え方を発表したりすることは苦手としている。
- ・ 多くの生徒が家庭での学習が不足しているので、基礎学力の定着が十分ではない。

II 本時の計画

1 本時の目標（評価規準）

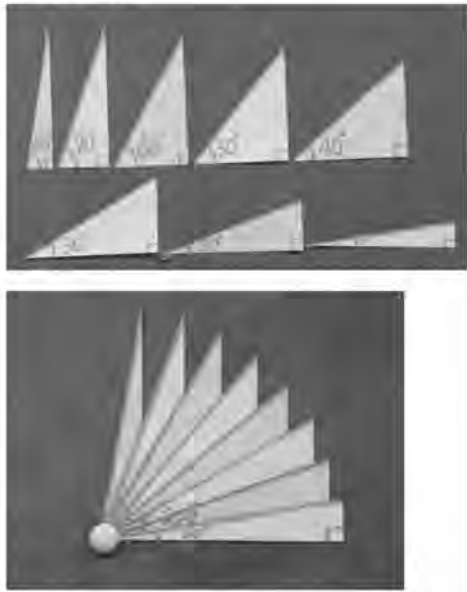
鋭角の三角比を座標を用いて鈍角に拡張することの意味を考察することができる。（(A3)、(B3)）

2 本時のポイント

教科書では、鋭角の三角比は直角三角形を用いて定義をするが、鈍角の三角比は直角三角形から離れて座標を用いて定義をするという、具体的な定義から抽象的な定義に拡張され、その結び付きが理解できず、納得できないということにつながっていると思われる。そのことによって三角比に対する関心も薄れ、意味が分からずにその定義を覚え、解法を覚えるに過ぎず、それが三角比のおもしろさを感じることができない原因となっている。

そこで今回の授業では、数学Ⅱで三角関数を学習することを念頭におきつつ、鋭角の三角比を定義した後に、教具を用いて鈍角の三角比や 360° までの三角関数の定義へと自然に拡張することで理解を深めるとともに、さらにおもしろさを実感できるような授業展開とした。

3 本時の展開

指導内容	学習活動（課題、発問、活動等）	指導上の留意点								
(導入 5分) ・前時の学習内容の確認	30°, 45°, 60°の三角比の値を求めよ。	・ワークシートに記入させる。 ・前時の学習内容を確認しながら答え合わせをする。								
(展開 35分) ・鈍角の三角比の考え方の理解	直角三角形の辺と角の比から三角比を考えました。しかし、角度には、鋭角だけではなく90°以上の角も存在します。しかし、90°以上の角をもつ直角三角形は存在しません。したがって、直角三角形の辺の長さを利用して三角比の値は求められません。 では、90°以上の角でも三角比の値が求められるように、別の方法で定義し直せないだろうか。 [質問1] sin30°と sin45°の大小は？ <table><tr><td>発問</td><td>予想される生徒の回答</td></tr><tr><td>これらの大小はどうやって比べるか。</td><td>分母をそろえる</td></tr><tr><td>分母をそろえるということは、どの部分の長さをそろえたということか。</td><td>斜辺</td></tr><tr><td>斜辺の長さを変えてしまっても大丈夫か。</td><td>三角比は大きさに関係ない</td></tr></table> [提示] 斜辺を描えた 10°ごとの直角三角形を見ていこう。  [質問2] 斜辺を描えたことで、どんなことが分かるか？ [予想される生徒の反応] ・Pが円を描く ・sin は高さの比較, cos は底辺の比較 ・x座標は小さくなり, y座標は大きくなる 	発問	予想される生徒の回答	これらの大小はどうやって比べるか。	分母をそろえる	分母をそろえるということは、どの部分の長さをそろえたということか。	斜辺	斜辺の長さを変えてしまっても大丈夫か。	三角比は大きさに関係ない	・前時に学習した内容を思い出させながら、考えさせる。 ・三角比の値の意味を図形的にとらえさせる ・各三角形の底辺を描えて重ねて貼る。また、各三角形の頂点が集まるところを磁石で押さえることで、磁石が中心で、点Pが円周上にあるように見せる。 ・質問2のあとは、友人と話し合わせ、多様な考えが出るようにする。 ・気付きづらいときは、「点Pはどんな線を描くと思うか」という発問を追加する。
発問	予想される生徒の回答									
これらの大小はどうやって比べるか。	分母をそろえる									
分母をそろえるということは、どの部分の長さをそろえたということか。	斜辺									
斜辺の長さを変えてしまっても大丈夫か。	三角比は大きさに関係ない									

指導内容	学習活動（課題、発問、活動等）	指導上の留意点
	[提示] 点Pが移動すると角θも変化するから、円を使って三角比を表してみよう。 (1) θが鋭角のとき $\sin \theta = \frac{y}{r}, \cos \theta = \frac{x}{r}, \tan \theta = \frac{y}{x}$ (2) θが鈍角のとき	- どこに直角三角形が出来るのかを意識させる。 - 半径と、点Pのx, y座標で三角比が求められることを意識させる。 - 角は反時計回りに大きくなることを確認する。 - 点Pの位置で角θもただ1つ定まるので、鋭角と同じように鈍角の三角比が定義できることを、120°の三角比を例にして示す。 - 座標で考えているので、底辺部分は負の数であることを強調する。 - 鋭角の場合と同様、どこに直角三角形が出来るのかを意識させる。
主要な角の三角比を求める	$0^\circ \sim 180^\circ$の主要な角の三角比を求めよう。 [課題1] $30^\circ, 45^\circ, 60^\circ$の三角比を求める。 [課題2] 120°の三角比を求める。 [課題3] $135^\circ, 150^\circ$の三角比を求める。 [課題4] $0^\circ, 90^\circ, 180^\circ$の三角比を求める。	- 半径rの円に、3つの直角三角形を色分けしてかく。 60°の直角三角形と対称であることを理解させる。 - 座標で考えるので、底辺の長さに相当する値が負であることに注意させる。 120°の場合と同様に求めさせる。 - 分母が0の数は考えないことを確認し、$\tan 90^\circ$の値はないことを理解させる。
(まとめ 10分) 本時のまとめ	次のことを確認する。 「1つの円の周上の点Pの座標を考えれば、いろいろな角度の三角比を表すことが出来る!!」 [課題] $0^\circ \sim 180^\circ$の三角比を求めるテスト	- 主要な角の三角比はすべて覚えるのではなく、鋭角の場合の求め方を覚えておいて、鈍角はx座標が負となることに気をつければよいことを理解させる。 - 隣の生徒同士で問題を出し合う。

高等学校理科（化学基礎）学習指導案（例）

日 時	平成〇〇年〇月〇日（〇） 第〇校時
学 年・組	〇〇科 〇年〇組（男子〇〇名、女子〇〇名）
使用教科書	『化学基礎』（〇〇出版）
指 導 者	〇〇高等学校 教諭 〇 〇 〇 〇

1 単元名

物質の構成粒子

2 単元の目標

原子の構造及び電子配置と周期律との関係を理解させる。また、物質の性質について観察、実験などを通して探究し、物質について微視的な見方ができるようにする。

3 単元の指導観

(1) 生徒の実態

※生徒の興味・関心、学習態度、学力について記述する。

(2) 指導の方針

物質の構成単位である原子の構造及び電子配置と元素の周期表との関係について理解させる。

4 単元の観点別評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
- 電子や原子核の発見の歴史に触れながら、物質の構成粒子や原子の構造について意欲的に探究しようとする。 - 放射性同位体の年代測定や医療などへの利用方法を確認し、同位体や原子の性質について関心をもっている。 - 元素の周期律を確認するためのアルカリ金属の性質に関する観察、実験に目的意識をもって意欲的に取り組んでいる。	- 原子の大きさや質量、電気の量を、原子を構成する陽子、中性子、電子の数や質量、電気の量から考察している。 - 原子の電子配置やイオン化エネルギーに関して、元素の周期律をグラフで表現し、元素の性質の周期性を説明している。 - アルカリ金属の化学的性質を基に元素の周期律について考察し、報告書にまとめている。	元素の周期律を確認するためのアルカリ金属の性質に関する観察、実験を通して、その基本操作や実験結果の記録方法を習得している。	- 原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質についての知識を身に付け、原子番号 20 番までの原子の電子配置を理解している。 - 原子番号や質量数、元素の定義を理解するとともに、同位体に関する知識を身に付けている。 - 元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解している。

5 単元の指導計画及び評価計画（5 時間）

◎の付いた評価規準：評価規準に照らして到達度を確認し、到達度の状況を主に単元の評価の総括の資料とする。
○の付いた評価規準：評価規準に照らして到達度を確認し、到達度の状況に応じた適切な働きかけや指導の手立てを行うことを主に重視する。

時間	学習内容	学習活動とねらい	評価の観点				評価規準	評価方法等
			関	思	技	知		
1	原子の構造	- 原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を確認する。また、身近な元素の安定同位体を確認する。【板書】 - 放射性同位体の性質を安定同位体と比較しながら整理するとともに、放射性同位体の年代測定や医療などへの利用方法について理解する。【ワークシート】	◎				電子や原子核の発見の歴史に触れながら、物質の構成粒子や原子の構造について意欲的に探究しようとする。	- ノート - 行動観察 - 学習の振り返りシート
						○	原子番号や質量数、元素の定義を理解するとともに、同位体に関する知識を身に付けている。	- ノート - 学習の振り返りシート
			○				放射性同位体の年代測定や医療などへの利用方法を確認し、同位体や原子の性質について関心をもっている。	- 行動観察 - ワークシート
2		- 原子番号 20 番までの原子の電子配置を整理して理解する。また小テストを通して、主な原子の電子配置に関する知識が身に付いているかを確認する。【板書】【確認テスト】 - 原子の一般的な構造と性質が、構成する陽子、中性子、電子の性質と、それぞれの配置から考察し、ワークシートにまとめる。【ワークシート】				◎	原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質についての知識を身に付け、原子番号 20 番までの原子の電子配置を理解している。	- 確認テスト - ノート - 学習の振り返りシート
				○			原子の大きさや質量、電気の量を、原子を構成する陽子、中性子、電子の数や質量、電気の量から考察している。	ワークシート

3	電子配置と 周期表	・元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。 【板書】				○	元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解している。	・ノート ・学習の振り返りシート
4		・単原子イオンの生成を、電子配置と関連付けて理解し、イオン化エネルギーの周期性を周期表と関連付けて考察する。 【板書】 ・電子配置やイオン化エネルギーに関して、元素の周期律をグラフで表現し、グラフを基に元素の性質の周期性を文章で表現する。【演習レポート】			◎		原子の電子配置やイオン化エネルギーに関して、元素の周期律をグラフで表現し、元素の性質の周期性を説明している。	・ノート ・演習レポート
5 (本時)		・実験を通して、周期表第1族の元素(アルカリ金属)の性質を調べる。そして同族の元素の性質の類似性を確認することで、元素の周期律を考察し、報告書にまとめる。【生徒実験】		◎			アルカリ金属の化学的性質を基に元素の周期律について考察し、報告書にまとめている。	・実験レポート
			○				アルカリ金属の化学的性質に関する観察、実験に意欲的に取り組んでいる。	・行動観察 ・実験レポート
					◎		アルカリ金属を安全に取り扱う方法や実験結果を的確に記録する方法が身に付いている。	・行動観察 ・実験レポート

6 本時の展開

項目	周期表第1族の元素(アルカリ金属)の性質			
本時の目標	①アルカリ金属の化学的性質を基に元素の周期律について考察し、報告書にまとめる。(思考・判断・表現) ②アルカリ金属の化学的性質についての観察、実験に意欲的に取り組む。(関心・意欲・態度) ③アルカリ金属を安全に取り扱う方法を身に付ける。(実験の技能)			
準備	シャーレ、ろ紙、ピーカー、時計皿、ピンセット、試験管、試験管立て、カッターナイフ、ライター、ナトリウム片、カリウム片、水、フェノールフタレイン、灯油、防護メガネ			
段階	具体目標	学習内容・活動	指導上の留意点	評価
導入 5分	○アルカリ金属を安全に取り扱う方法を確認する。	○本時の学習内容及び観察、実験の目的を確認する。 ○アルカリ金属を安全に取り扱うのに必要な知識を確認する。	○既習事項とこれから行う実験の注意事項とを関連付ける。	○防護メガネの使用や、直接ナトリウムに手で触れてはいけない理由を説明できる。 (実験の技能)
展開 35分	○アルカリ金属の化学的性質に関する観察、実験に、目的意識をもって意欲的に取り組む。 ○観察、実験の方法を理解し、安全に実験を行う。	○学習プリントで、実験操作、手順を理解、確認する。 【操作1】 ①ナトリウム片の外観及びナイフで切ったときの切り口の観察 ②水に入れたときの様子の観察 ③水素の発生の確認 ④水溶液の液性の確認 【操作2】 ⑤濡れたろ紙上のナトリウムの様子の確認	○実験実施上の注意を徹底させる。 ○実験班を回り、実験が安全に行われているかを確認する。 ○ピーカーに時計皿を被せたままドラフトに運び、発生する白煙の処理をする。	○ナトリウムを適切に取り扱っている。(実験の技能) ○予想を立てながら、目的意識をもって観察、実験ができる。(関心・意欲・態度) ・空気中での酸化の確認。 ・金属光沢の確認。 ・ナトリウムの密度に関する気付き。 ・水と反応して生成した物質への興味・関心。 ・発火した際の炎色反応に対する気付き。
まとめ 10分	○アルカリ金属の化学的性質を基に元素の周期律について考察し、報告書にまとめる。	○実験プリントを整理しながら、考察する。 ○カリウムの性質を演示実験で確認する。 ○アルカリ金属の性質を中心に周期律が見られる原理について考察を深める。 ○実験等についての感想、及び自己評価を記入し、実験プリントを完成させる。	○考察した内容を的確に表現させる。 ○カリウムの性質を、周期表を見ながら確認させる。 ○時間に余裕があれば、ナトリウムとカリウムの電子配置を確認させ、考察を深めさせる。 ○実験プリントを提出させる。	○カリウムの反応を予想できる。(関心・意欲・態度) ○実験プリントの評価 (思考・判断・表現) (関心・意欲・態度) ・観察、実験について、その過程や結果を的確に記入している。 ・考察したことを自身の言葉で適切に表現している。

保健体育科（体育）学習指導案（例）

日 時	平成〇〇年〇〇月〇〇日（〇）第〇校時
場 所	第〇体育館
学 年 組	〇〇科〇年〇、△組〇〇名（男子〇名、女子△名）
教科書等	保健体育（〇〇出版）
指 導 者	〇〇高等学校 教諭 〇 〇 〇 〇

1 単 元 名 球技「ネット型」バレーボール

2 単元の指導観

(1) 一般的特性からみた指導観

コート上でネットをはさんで相対し、身体を操作してボールを空いている場所に返球し、一定の得点に早く到達することを競い合うゲームである。そのために、仲間と連携した「拾う、つなぐ、打つ」などの一連の流れで攻撃を組み立てたりして、相手の陣形や返球によって生じる相手側コートの空いた場所をめぐる攻防を展開し楽しむものである。

自己のチームや相手チームの特徴に応じた作戦を立てて勝敗を競う楽しさや喜びを深く味わえるよう、立体的な空間の攻防としてとらえ、ボールの変化やリズムの変化によって相手の守備を崩し、得点しやすい空間を作りだすなどの攻撃とその対応による攻防を中心に取り上げるようにする。その際、状況に応じたボール操作とその対応をするためのボールを持たないときの動きに着目させ、学習に取り組ませることが大切である。

(2) 学習者の実態からみた指導観

クラス全体として体を動かすことが好きな生徒が多く授業において積極的に活動を行う。また仲間意識もあり運動を苦手とする生徒に対して、活発な生徒が自ら指導を行う姿が見られる。

1年次での授業計画では、基礎・基本に重点を置きオーバーパス・アンダーパス・サーブの個人的技能の習得強化を行い、基礎技能の定着を図る。基本となるパス練習からチームごとにグループ学習形式で行い、課題解決に向け互いに協力しながら主体的に学習する態度を育てる。授業終盤には6人制のゲームを行い、競技技術の向上を図るとともに種目特有のボールを繋げる事の楽しさや達成感、仲間との連帯感などを味わわせていきたいと考える。

3 単元の目標

- ・球技に主体的に取り組むとともに役割を積極的に引き受け自己の責任を果たし、健康・安全を確保することができるようにする。
[関心・意欲・態度]
- ・学習した知識や技能を活用して、チームや自己の課題に応じ運動の取り組み方を工夫することができるようにする。[思考・判断]
- ・バレーボールの基本技術を身に付け、状況に応じたボール操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開することができるようにする。
[運動の技能]
- ・個人の技術やチームとしての作戦や戦術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解できるようにする。
[知識・理解]

4 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 運動の技能	エ 知識・理解
①ネット型競技のための技術を習得する喜びや楽しさを、仲間と協力しながら味わおうとする。	①課題の達成状況を把握しながら、練習や試合の仕方を自ら工夫し、新しい課題に取り組んでいる。	①オーバーパス、アンダーパス、サーブの三つの基本技術を身に付け、ボールをコントロールする事ができる。	①球技に関連した体力の高め方について具体例を挙げている。
②自己の役割を果たし、チームの一員として貢献しようとしている。	②自分や相手の能力を考え、相手の動きや攻撃に対して有効なプレーを選んでいる。	②三段攻撃などの攻撃技能や、相手の攻撃に対する守備の技能など戦術に応じた動きができる。	②バレーボールの特性、二段攻撃、三段攻撃について具体例を挙げている。
③用具や服装、練習場などの安全を確かめ、危険なプレーは行わないなど、自他の安全に留意している。	③作戦などの話し合いの場面で、合意形成をするための適切な関わり方を見付けている。	③空いた場所をめぐる攻防を展開するためのボール操作や、相手のフォーメーションを崩すような返球を行う事ができる。	③ルールを理解し、試合の運営や審判の仕方について言ったり書き出したりしている。
			④学習した技術や行い方について、具体例を挙げている。

5 指導と評価の計画

時数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
学習の流れ	オリエンテーション	共通メニュー（準備運動・補強運動・学習内容の確認）競技の特性を生かした体づくり運動																
		基本技術練習 パス、サーブ、スパイク、レシーブ 等					課題練習 トス・スパイク、サーブ・レシーブ・スパイク、ブロック 等					課題練習（全体統一）				チーム練習		
		ゲームⅠ 簡易ルール（基礎）					ゲームⅡ 連携を考慮（基本）					課題練習（チーム毎）				班別 リーグ戦		
		ゲームⅢ フォーメーション（応用）																
	共通メニュー（整理運動・振り返り・次回課題等）																	
時数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
ア				①				②				③			③			
イ						①				②		①			③		②	
ウ				①		②			①						③			③
エ	①	②							③				④			③		
ア 関心意欲・態度				イ 思考・判断				ウ 運動の技能				エ 知識・理解						

6 単元の指導計画・評価計画

時間	主な学習内容	指導上の留意点	評価の重点				評価方法
			ア 関	イ 思	ウ 技	エ 知	
1	・オリエンテーション ・ボールタッチ・準備運動 ・補強運動・チーム編成	・ネット型ゲームの特性について理解させる。 ・単元のねらいと毎時間自分に課題を持つことが必要なことを知らせる。 ・バレーボールの動きに関連した準備・補強運動を実施させる。					学習ノート
2	・オーバー・アンダーパス ・直上トススキルテスト ・簡易(パス) ゲーム	・両手でボールに触れるようにさせる。 ・全員がボールに触れられるようにルールを設定する。 ・現段階での自己の課題をみつけさせる。				①	スキルカード 観察
3	・レシーブスキルテスト ・パス・サーブ ・簡易(パス) 半面3対3 ゲーム	・膝を使うことを理解させる。 ・3種類のサーブを行わせ自己に合うサーブを見付けさせる。 ・サーブ、オーバーハンドのみを使って試合を行わせる。				②	スキルカード 観察
4 本時	・オーバー・アンダーハンド パス・サーブ ・簡易(限定)9人ゲーム	・これまでのスキルテストの課題を振り返り練習させる。 ・自分の得意なサーブを行わせる。 ・オーバーパス、アンダーパス、サーブのみで試合を行わせる。	①				学習ノート 観察
5	・サーブ・サーブレシーブ ・トス ・簡易6人ゲーム	・狙いを決めさせ、狙った所にサーブを打たせる。 ・ボールの上の方を叩くことを意識させる。			①		ワークシート
6	・サーブ・サーブレシーブ ・トス・スパイク ・簡易9人ゲーム	・それぞれのパスを使うケースを理解させる。 ・膝を使い高く上げさせる。 ・最高到達点、ボールに触れるタイミングを意識させる。 ・レシーブ、トス、スパイクの流れを意識させる。		①	②		学習ノート 観察
7	・トス、スパイク ・スパイクレシーブ ・審判法 ・簡易6人ゲーム	・流れの中でレシーブを行わせる。 ・チーム内でセッターとアタッカーの役割分担を理解させ両方 行わせる。 ・全員に線審を理解させる。	②				ワークシート 観察
8	・パス・スパイク ・サーブ ・簡易6人ゲーム	・それぞれの役割を理解させこなせるように指導する。 ・他のチームの試合を見て良いところを見付けさせる。					ワークシート 観察
9	・パス・スキルテスト (スパイク・トス・サーブ) ・審判法・簡易6人制ゲーム	・チーム内で協力し、技術差をカバーしながら行わせる。 ・主審・副審の方法を理解させる。 ・チーム内で互いの良いところを見付けさせる。			①	③	スキルカード 観察
10	・トス・スパイク ・サーブ ・簡易6人制ゲーム	・クイックの練習をする。 ・個人の技術差をチーム内でカバーし合いながら試合を行わせる。		②			学習ノート
11	・トス・スパイク ・ブロック ・簡易6人制ゲーム	・フォーメーションを様々な形で試してみる。 ・適したポジションを考えさせる。	③				フォーメーション シート 観察
12	・サーブ ・2人での複合練習 ・簡易6人制ゲーム	・現時点でのチームの課題や改善点、フォーメーションを考え ながら試合に望むようにさせる。 ・課題にあった練習をさせる。		①			フォーメーション シート
13	・ブロック ・3人以上の複合練習 ・簡易6人制ゲーム	・課題を見据えながら練習を行わせる。その改善が見られたか も判断させる。 ・課題練習を生かしたゲームを展開するようにさせる。				④	学習ノート 観察
14	・スパイク・ブロック ・3人以上の複合練習 ・簡易6人制ゲーム	・前時のゲームで上がった見直すべき課題・練習を行わせる。 ・試合の場面を想定して、意図的な攻撃を組立させる。	③				学習ノート 観察
15	・スキルテスト ・フォーメーション ・正規のゲーム	・リーグ戦での戦力やフォーメーションを相手に応じて考える ように促す。		③	③		スキルカード 観察
16	・サーブ ・フォーメーション ・正規のゲーム(リーグ戦)	・生徒に審判を行わせる。 ・相手の攻防に応じた作戦を立てられるように、間にタイムア ウトの時間を設ける。				③	フォーメーション シート
17	・フォーメーション ・正規のゲーム(リーグ戦)	・生徒に審判を行わせる。 ・相手の攻防に応じた作戦を立てられるように、間にタイムア ウトの時間を設ける。		②			フォーメーション シート 観察
18	・正規のゲーム(リーグ戦) ・反省・評価	・個人の反省・評価、チームの反省・評価を行わせる。			③		学習ノート 観察

7 本時の指導（本時：18 時間中の 4 時間目）

(1) 本時の内容「オーバーパス・アンダーパスの確認とサーブ」

(2) 本時の目標

- ・オーバーパスとアンダーパスの基本動作をスムーズに行う事ができる。また二つの使い分けを判断する事ができる。
- ・簡易ゲームで、チームで協力し合い、バレーボールを楽しむ事ができるようにする。

(3) 見学者への対応

グループ学習の一員として、基本動作やサーブの理解について学習を進めるとともに、他のメンバーがスムーズに学習を行えるよう、ボール拾いや審判、応援など補助を行う。

(4) 準備物

ネット・バレーボール・笛・フラッグ・得点板・コーン

(5) 学習指導の展開

段階	時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入	5	1 集合・整列・挨拶	・バレーボールの授業用の隊形に整列する。	・きちんと集合隊形が整うまで指示する。
		2 出欠確認・健康観察	・出欠席および見学について確認する。	・一人ずつ呼名し、しっかり返事をさせる。
		3 本時の説明	・本時の目標、内容について理解する。	・学習の補助や見学のポイントなど、見学者の学習についても具体的に説明する。
		4 準備運動	・教師の指示のもと、準備運動を行う。	・全員がバスを行えるよう、余る生徒がいなか確認・指示する。
展開	15	5 対人パス	・二人 1 組でパス	・座位と立った状態それぞれの、ボールへの力の加え方、腕の振り方、重心の位置などの違いを意識させる。
		オーバー・アンダーの基本動作をスムーズに行える	・ボールを使ってストレッチ ・座位でキャッチボール ・立ってキャッチボール ・ワンバウンドパス ・ヘディング	【回答】ヘディングをできる高さから上 がオーバー、下がアンダー。
		6 サーブ	【発問】アンダーかオーバーのどちらで取るかの見極めは？	・1 回は、ネットを挟んで行えるようローテーションさせる。
展開	5	自分の筋力や体型に合ったサーブを打つ事が出来る	・オーバーパス ・アンダーパス（片手と両手）	・オーバーとアンダーそれぞれの、ボールの触れ方を分解練習で行い、正確に出来るよう指導する。
		7 簡易ゲーム	・遠投 5 本以上 ・サーブ ・アンダー・サイドサーブ ・フローターサーブ	・見学者もグループの一員とし、練習の補助をするなど、一緒に活動させる。
		チームで協力してゲームを楽しむ事が出来る	・10 分間の簡易ゲーム（1 チーム 9 人） ・チーム対抗（2 面）	☆オーバーはきちんと落下地点でボールを捕らえているか。 ☆アンダーは、肘が伸びているか、膝を使っているか、ボールを正しい場所で捕らえているか。〔ウ①〕（学習ノート・観察）
まとめ	5	8 片付け・整列 整理運動	・教師の指示のもと、負けチームが片付けを行う。	・打数を多く打つように呼びかける。
		9 まとめ	・ストレッチ	・エンドラインを踏まないでサーブを打つように意識させる。
		10 挨拶・解散	・本時の学習を振り返り、次時の課題を把握する。	・コーンを置き、狙うコースを意識させて打たせる。
まとめ	5		・挨拶	・チーム内で声掛けを行い、自分たちで盛り上げる事の重要性を理解させる。
				☆仲間と協力して声かけなどを積極的に 行っているか。〔ア①〕（学習ノート・観察）
				・チーム内で協力して片付けを行うよう指示する。
まとめ	5			・使った部位を意識させ、ストレッチを中心に十分にほぐし、疲労の回復に努める。
				・けがの有無、体調の変化に十分気を配る。
				・全員できちんと整列・挨拶をさせる。

(6) 具体的評価規準と手立て

評価の観点	A 「十分満足できる」状況	B 「おおむね満足できる」状況	C 「努力を要する」状況
ア 関心・意欲・態度①	プレーを修正したり、チームにアドバイスをしたりしながら、積極的にボールを繋いでゲームをしている。	チーム内に声を掛けながら、ボールを繋ごうとしている。	（手立て） ポジションの役割と場面毎の動き方について助言し、チームに協力した時の喜びを味わわせる。

芸術科（音楽Ⅰ）学習指導案（例）

日 時	平成〇〇年〇月〇日（〇）第〇校時
学 年・組	〇〇科 第〇学年〇組（男子〇名、女子〇名）
使用教科書	「教科書名」（出版社名）
指 導 者	教諭 〇〇 〇〇

1 題材名 五音音階で音楽をつくろう

2 題材の目標

音階や旋法の違いによる曲想の特徴を捉えて聴き、それらを参考にして自ら選択した音階を用いて短い旋律をつくり、その旋律を組合せてイメージをもって音楽をつくることができる。

3 題材設定の理由

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領の内容、A表現（1）歌唱イ「曲種に応じた発声の特徴を生かし、表現を工夫して歌うこと。」（3）創作ア「音階を選んで旋律をつくり、その旋律に副次的な旋律や和音などを付けて、イメージをもって音楽をつくること。」B鑑賞イ「音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して鑑賞すること。」に基づいて構成している。

題材の前半では、五音音階（ペンタトニック）から成る楽曲を鑑賞したり表現したりして、その音階特有の曲想を感じ取ることができるようにする。後半では、興味をもった音階を用いて、その音階に関連のある国や地域からイメージしたことを基に簡単な旋律をつくり、その旋律をペアでつなげたり重ねたりして三部形式の楽曲に仕上げられるようにする。

これらの活動を通して、用いる音階や旋律同士の組合せ及びリズムや速度等の音楽を形づくっている要素によって曲想が変わることを感じ取らせたいと考える。

(2) 生徒の実態 [略]

4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
①様々な国や地域の五音音階から成る音楽に関心をもち、表現や鑑賞の活動に主体的に取り組んでいる。 ②互いの発表を聴き、表現したいイメージと作品の曲想、旋律の組合せや重なりなどについて、講評している。	①前時につくった旋律をもとに、その旋律に音の組合せ方を考えて副次的な旋律や低音の伴奏を付けるなど、表現したい音楽のイメージをもち工夫している。	①沖縄音階の特徴を感じ取り、曲想にふさわしい発声で「ていんさぐぬ花」を歌唱している。 ②音階を選んで旋律をつくっている。 ③旋律のつなぎ方や終わり方などを工夫して曲を仕上げている。	①歌劇「トゥーランドット」の抜粋を、旋律や音色に着目して聴き、西洋と東洋の音楽とが融合した魅力を味わって聴いている。

5 題材の指導計画（総時数 6 時間、本時は 5 / 6 時間）※評価規準は紙幅の都合により略して表記。上表を参照

時	主な学習活動	評価規準、評価方法
1	・雅楽、童歌、沖縄の民謡、中国の民謡等の曲を聴き、それらの共通点を見つける。 ・五音音階は多くの国や地域で使われていることや、明治時代以降に使われるようになった四七抜き音階について知る。 ・黒鍵のみで演奏できる曲を探して弾いてみる。	【関①】〔観察、発言、ワークシートの記述〕
2	・歌劇「トゥーランドット」の抜粋を、旋律や音色に着目して聴き、西洋と東洋の音楽とが融合した魅力を味わう。	【鑑①】〔観察、ワークシートの記述〕
3	・「谷茶前」を聴いたり「ていんさぐぬ花」を歌唱したりして、沖縄音階に親しむ。 ・沖縄音階を用いて四分の四拍子 2 小節程度の旋律を即興でつくり、コール＆レスポンスの活動をする。	【技①】〔演奏、観察、ワークシートの記述、録音〕
4	・雅楽と中国の民謡を聴き、構成音が同じであっても、中心となる音、拍子感やリズム等の働きによる曲想の違いを感じ取る。 ・「〇〇へ行こう！」（〇〇は国名、地名等）の音楽づくりの学習の流れの見通しをもつ。 ・五音音階から一つ選んで、4 または 8 小節の旋律をつくる。	【技②】〔観察、ワークシートの記述、録音〕

5 本 時	・同じ音階を選んだ生徒でペアになり、前時につくった旋律をつなぎ、三部形式の曲をつくる。 ・表現したいイメージに合う低音伴奏や副次的旋律を、つくったり選択したりする。	【創①】〔観察、ワークシートの記述、録音〕
6	・終わり方を工夫するなどして、「〇〇へ行こう！」を仕上げる。 ・各ペアの作品を発表し、表現したいイメージと作品の曲想、旋律の組合せや旋律の重なり等について講評し合う。(演奏の技能については評価しないので、演奏に当たっては技能の優れた生徒や教師が支援したりコンピュータを活用したりすることも考えられる。)	【技③】〔作品、観察、録音〕 【関②】〔観察、発言、ワークシートの記述〕

6 本時の指導

(1) 本時の目標

表現したい音楽のイメージをもち、前時につくった旋律をもとにその旋律に音の組合せ方を考えて副次的な旋律や低音の伴奏を付けるなど、工夫しながら音楽をつくることができる。(音楽表現の創意工夫)

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	準備物等
導入 5	1 既習曲「ていんさぐぬ花」にオスティナートを加えて歌唱する。 2 学習課題と手順を理解する。 前時につくった旋律をつないで、三部形式の曲「〇〇へ行こう！」をつくろう。	・オスティナートを数人に担当させる。(例:「C-G-C-G-」の音で母音唱を繰り返す。) ・主旋律は曲想にふさわしい発声で歌うように促す。 ・曲作りの手順を説明する。 ①二人の旋律を[A]-[B]-[A]の形式に当てはめる。 ②どのようなイメージの曲にするかをペアで話し合い共有する。 ③各自の旋律に伴奏を付ける。 ④二人の作品を合わせて演奏を試みる。	・手順を示した紙又はプレゼンテーション
展開 20	3 ペアで構成を話し合って音楽づくりをする。 予想される反応例(沖縄音階) [A]: 青く澄んだ広い海をイメージ [B]: 三線を伴奏に、人々が賑やかに歌い踊っているイメージ	・イメージの共有が重要であるため、活動のはじめと途中にも確認させる。 ・記譜が苦手な生徒には、簡易楽譜の工夫やコンピュータによる記譜、録音機器の活用などにより、支援し、つくる活動に時間を使えるようにする。 ・事前に生徒の作品を把握しておき、選んだ音階に合う低音の伴奏パターンをヒントとして示す準備をしておく。 ・これまでにつくった旋律の中から伴奏や副次的旋律として使うように助言する。 ・三人のグループの場合は、二人の旋律を重ねたり、ロンド形式でつくったりすることを助言する。	・ワークシート ・鍵盤楽器・音板楽器 ・リコーダー(各自持参) ・低音伴奏のヒントカード ・録音機器
10	4 いくつかのペアが発表し、曲の構成、旋律の重なり等について話し合う。	・本時では、表現の技能の評価は行わない。演奏については、演奏技能の優れた生徒や教師が支援することが考えられる。	
10	5 表現したいイメージにふさわしい表現を工夫する。	・曲が構成できたら、リズム、速度、強弱などの観点からも、イメージにふさわしい表現を工夫するように促す。	
評価【音楽表現の創意工夫】〔観察、発言、ワークシート、録音等〕 前時につくった旋律をもとに、その旋律に音の組合せ方を考えて副次的な旋律や低音の伴奏を付けるなど、表現したい音楽のイメージをもち工夫しているか、学習活動3～5で評価する。 〔概ね満足と判断される状況〕 ・二人の旋律を[A]-[B]-[A]の三部形式で構成し、低音の伴奏を付けるなどして、表現したい音楽のイメージをもち工夫している。 〔努力を要する生徒への手立て〕 ・表現したいイメージを確認させ、そのイメージにふさわしい伴奏のパターンを選ばせて音楽を構成させる。 〔十分満足と判断される状況〕 ・三部形式で構成し、低音の伴奏や副次的旋律を重ねるなどして、表現したい音楽のイメージをもち、リズム、速度、強弱等も工夫している。			
終末 5	6 本時の学習を振り返る。	・本時の取組を十分に称賛し、次時は発表し合うことを伝えて意欲付けを図る。	・自己評価カード

※本時ではペアによる活動例を示しているが、個人またはグループでの活動も考えられる。グループで行う際には、個人の作品が生かされるように留意する。

英語科学習指導案(例)

日 時	平成〇〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時
学年・組	〇〇科 〇年〇組 〇名 (男子〇名、女子〇名)
科目名	コミュニケーション英語 I
使用教科書	〇〇〇〇 English Communication I (〇〇出版)
指導者	教諭 〇〇 〇〇

1 単元名 Lesson 〇 “The Doctor with the Hands of God”

2 単元のねらい

神の手を持つと言われている福島医師の、医者としてのキャリア、モットー、医者になった経緯、後輩や患者との関わり方を理解する。また、読んで得た情報を参考に自分の将来について考え、夢や職業選択についての自分自身の意見を口頭で伝える能力を身に付ける。

- (1) ペアワークに意欲的に取り組み、互いに協力しながら会話を続けようとしている。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2) 福島医師についての説明文を読んで、その内容を口頭でストーリーリテリングができる。(外国語表現の能力)
- (3) 福島医師の言動やその言動の理由等を捉えることを通して、本文の概要や要点を理解することができる。(外国語理解の能力)
- (4) 将来の職業や夢についての考えやその理由を伝える表現を理解している。(言語や文化についての知識・理解)

3 指導に当たって

- (1) 指導観 [略]
- (2) 生徒観 [略]

4 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
A1 ペアやグループで、音読したり、感想や自分の意見を述べ合ったりする活動に積極的に取り組んでいる。	B1 福島医師についての説明文を読んで、その内容を口頭でストーリーリテリングができる。	C1 福島医師の言動やその言動の理由を捉えることを通して、本文の概要や要点を理解することができる。	D1 将来の職業や夢についての考えやその理由を伝える表現を理解している。
A2 聞き取れない箇所や未知の語句があっても、推測するなどして聞き続けている。	B2 将来の夢や職業選択について、ペアやグループで自分の意見とその理由を伝え合うことができる。	C2 文章の内容から、書き手の意図を推測することができる。	D2 正しい語順や語法を用いて文章を構成する知識を身に付けている。

5 単元の指導計画 (総時数10時間)

時間	該当箇所	指導内容・方法	評価規準との関わり
1	レッスンの導入 Part 1	話題の導入、新出単語・語彙の確認、Oral Introduction、本文の内容に関する Q&A	A2、C1
2	Part 1、Part 2	音読、ストーリーリテリング、新出単語・語彙の確認、Oral Introduction 本文の内容に関する Q&A	B1、D2
3	Part 2	本文の内容に関する Q&A、音読、ストーリーリテリング	A1、B1
4	Part 3 (本時)	新出単語・語彙の確認、Oral Introduction、本文の内容に関する Q&A 音読	A2、C1
5	Part 3、Part 4	音読、ストーリーリテリング、新出語句・語彙の確認、Oral Introduction 本文の内容に関する Q&A	A2、C2

6	Part 4	本文の内容に関する Q&A、音読、ストーリーリテリング	B1、D2
7	Comprehension、 Vocabulary & Expressions、 Grammar、 Follow-up Activity	本文の内容確認、重要語彙・表現、文法事項の確認 将来の夢や職業選択について考える	C2、D1
8	Follow-up Activity	将来の夢や職業選択についての意見発表	A1、B2、D1

6 本時のねらい (総時数 10 時間中 5 時)

- (1) 福島医師が医師になった経緯を読み取ることができる。(C1)
- (2) 教師の Oral Introduction や英問英答において、聞き取れない箇所や未知の語句があっても、推測するなどして聞き続けている。(A2)

7 本時の展開 (Teaching Procedure)

学習活動 (分) (Procedure)	生徒の活動 (Students' Activities)	教師の支援 (Teachers' Activities)	留意・観察点 (Teaching & Evaluating Points)
Warm-up (1min.)	・Greet.	・Greet.	
Small talk (4min.)	・Listen to teacher's small talk and answer the questions. ・Talk about teacher's talk in pairs.	・Talks about the reason why the teacher decided to become an English teacher. ・Asks student how do they feel about teacher's talk.	・Includes new words and phrases in the small talk. ・Watches whether students try to continue their talk in pairs.
New Words & phrases (10 min.)	・Get into pairs. ・Confirm the meaning of new words in pairs. ・Combine new words with their English definitions. ・Repeat new words after teacher. ・Listen to the teacher's explanation about new phrases. ・Exercise in English compositions using new phrases. ・Correct mistakes by themselves in pairs.	・Makes pairs. ・Has students confirm the meanings of new words in pairs. ・Gives students the worksheet and has them combine new words with their English definitions. ・Pronounces new words. ・Explains new phrases using the worksheet. ・Has students exercise in English compositions referring to pictures on the worksheet. ・Has students correct mistakes in English composition.	・The worksheet contains 1 new words and their English definitions 2 explanation of new phrases with many example sentences. 3 pictures which help students to make English sentences. ・Watches whether students read new words and phrases correctly. ・Watches whether students cooperate and try to make sentences using new phrases in pairs.
NEW MATERIALS Priest / naughty / chimney / pipe / coal / clever / trap / soot / seriously / respected / advise / advice / neurosurgery / mentor / knowledge / moreover / be born to A / as well / set up A / force A to do / get into A / A as well as B / care about A			

Oral Introduction (5 min.)	- Look at the chronology on the board and listen to teacher's explanation. - Answer the questions in English, or listen to the classmates answering them.	Puts the chronology of Dr. Fukushima on the board and explains about his school days asking students some questions.	- Paraphrases the contents so that students can understand the contents. - Watches students listen to the explanation to grasp the outline.(A2) - Makes blanks in the chronology to have students listen carefully. - Has many students answer the questions and sees if the students try to answer the questions in English.
THE OUTLINE OF ORAL INTRODUCTION When was Dr. Fukushima born? How old is he now? <Elementary school> He had to change his school, because he behaved badly. Can you believe it? It is very surprising, isn't it? <Junior high school> Dr. Fukushima didn't think about his future. Did you think about your future in junior high school? <High school> Dr.Fukushima made a big decision about his future. Have you decided your future? <University> Dr.Fukushima met a very important person for him.			
Listening (2 min.)	Listen to the CD.	Plays the CD.	Has students listen carefully with the textbooks closed.
Understanding (15 min.)	- Answer the questions and fill in the blanks of the chronology in English on the worksheet. - Answer the questions and share the answer in pairs.	- Gives students the worksheet. - Asks students questions about Dr. Fukushima's paraphrasing the text. - Has students fill in the blanks and complete the chronology in English. - Asks two questions to deepen students' understanding. - Call on some students and ask their opinions.	- Makes the worksheet with some blanks. - Has students fill in the blanks and understand the content correctly.(C1) - Has students work in pairs if necessary. - Encourages students who have difficulty in understanding.
QUESTIONS (1) Why did Dr. Fukushima decide to become a doctor? (2) Why does Dr. Fukushima always hope to become like Professor Sano?			
Reading (10 min.)	Read the text. WAYS OF READING ① Chorus reading (repeat after CD) ② Buzz reading ③ Pair Reading ④ Read and look up	Has students read the text in some ways.	- Checks whether the students can read Part 3 aloud with the proper pronunciation. - Encourages students who have difficulty in reading.
Consolidation (3 min.)	Greet.	Greets.	

家庭科（家庭基礎） 学習指導案（例）

日	時	平成〇〇年〇月〇日（〇）第〇校時
学年・組	普通科	第〇学年〇組（男子〇名、女子〇名）
使用教科書	「〇〇（教科書名）」（〇〇出版社（出版社名））	
指導者	〇〇高等学校 教諭 〇 〇 〇 〇	

1 単元名 「消費者として自立する」

2 単元の目標

- ① 自分が一消費者であることを認識するとともに、社会との関わりについて理解する。
- ② 契約社会における取引のルールを理解し、適切な消費行動がとれるようにする。
- ③ 自分の将来を見通しながら、消費者として自立していかうとする能力を養う。
- ④ 消費者として自立する能力としての家庭経済の管理の技術を身に付ける。

3 単元の指導観

(1) 生徒の実態

食分野に関する興味・関心は高いが、消費分野に関する興味・関心は低い傾向である。多くの生徒は授業に集中して取り組むことができ、また、ポイントを絞った授業ノートを作ることでもある。しかし、発言や発表などには消極的であり、全体的におとなしい印象を受ける。

(2) 指導の方針

現代の生活において、お金は必要不可欠なものである。しかし、お金は手段であって目的ではない。お金に生活を支配されないためにも、自分自身の生活の中でお金の位置付けを行うことが必要となる。卒業後すぐに自立していく生徒の多い本校において、自分自身の経済生活について考えることを通して、生き方そのものを考えさせたい。また経済社会とのつながりを意識させながら、現実的なレベルで家計を考えることにつなげていきたい。この時期に消費者として自立する力を付けることで、自信をもって自分の将来を見通した経済計画を立て、消費行動がとれるようにしたい。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
- 自分が一消費者であることを踏まえて、財・サービスの購入の在り方や、消費行動、消費と環境の関わりについて考えようとしている。 - 国民経済の仕組みと家計の特徴を踏まえて、自身の経済計画について考えようとしている。	- 消費行動における主体的な意思決定について考え、まとめたり、発表したりしている。 - 経済社会と家計との関係を考えながら、家庭の収入・支出・貯蓄などについて考えている。	財・サービスの選択に際し、様々な生活情報を収集・整理することができる。	- 家計と経済社会との関わりを理解している。 - 生涯を見通した経済計画の重要性について理解している。 - 消費行動における意思決定の重要性を理解している。 - 消費者問題について理解している。 - 自立した消費行動のための支援について理解している。

5 単元の指導計画及び評価計画（7時間）

時	学習内容	評価の観点				評価規準・評価方法
		関	思	技	知	
1	【社会保障と保険】 ○生活を支える社会保障 ○リスクに備える				●	人生の中で起こり得る危機（リスク）を予想し、それに備えるための準備の必要性を理解している。（観察）（ペーパーテスト）
2	【経済的に自立する】 ○経済から見た暮らし ○家計とその特徴		●		●	- 経済の仕組みを踏まえて、ライフステージと生活費の関わりについて理解している。（観察）（ペーパーテスト） - 自己の生活にあった家計管理の方法を考え、まとめた発表したりしている。（ワークシート）（観察）
3	【主体的な消費行動と契約】 ○「買う」ことは「契約」 ○主体的な消費行動	●		●		- 欲しい品物の情報を収集し、整理することができる。（ワークシート）（観察） - ロールプレイを通して、消費行動について意欲的に考えようとしている。（観察）（ワークシート）
4	【多様化する販売方法と問題商法】 ○無店舗販売の増加と問題商法 ○通信販売とインターネット	●			●	- ロールプレイを通して、トラブルへの対処法及び予防法を意欲的に考えようとしている。（観察） - トラブルへの対処法及び予防法について理解している。（観察）（ペーパーテスト）

5	【支払い方法の多様化と消費者信用】 ○支払い方法の多様化 ○多重債務に陥らないために	●	●	●	・様々な支払い方法とその仕組みについて理解している。 (観察) (ペーパーテスト) ・消費者信用の金利の計算を通して、借金することについて確認し、その利用について考え、まとめたり、発表したりしている。 (観察) (ワークシート)
6	【消費者の権利と責任】 ○消費者の権利を守るために ○これからの消費者	●	●	●	・消費者を守る法律や機関があることを理解している。 (観察) (ペーパーテスト) ・消費者が協力し連携することが、事業者や行政を動かす力になることを知り、自分に何ができるのかを考え、まとめたり、発表したりしている。 (観察) (ワークシート)
7 (本時)	【消費者として自立する】 ○生涯を見通した経済計画	●	●	●	・生涯を見通した経済計画の必要性を理解している。 (観察) (ワークシート) (ペーパーテスト) ・自身の経済計画の必要性に関心をもち、具体的に考えている。

6 本時の指導計画

- (1) 題目 消費者として自立する
- (2) 目標
 - ・生涯を見通した経済計画の必要性を理解する。【知識・理解】
 - ・自身の経済計画の必要性に関心をもち、具体的に考える。【関心・意欲・態度】
- (3) 準備物 車の広告、自動車保険のリーフレット、ワークシート
- (4) 本時の展開 (7時間のうちの第7時)

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価〔評価方法〕
導入 5分	・本時の学習内容の確認	・本時の実習内容を確認する。	・ホワイトボードに整理しておく。 ・消費経済分野の学習のまとめとして、自動車購入のプロセスをたどっていくことを伝える。	
展開 40分	・私の乗りたい車 ・意見発表 ・購入に向けて ○費用 ○維持費 ○自動車保険 ・車の購入と生活設計 ・自身の消費行動の評価	・自分が乗ってみたい車をイメージする。 ・選んだ車及びその理由を発表する。 ・自動車購入に必要な費用を知る。 ・自動車保険の仕組みを知る。 ・支払いにローン組むことを想定し、日々の生活費からこのローンが引き落とされていくことを想定する。 ・今後の自身の生活費から自動車購入資金を用意することを想像する。 ・ここまでの自動車購入に関する自身の消費行動を評価する。	・車の広告などを利用して、乗りたい車を選ばせる。その際、何を重視して選択したかその理由をまとめさせる。 〔車の広告、ワークシート〕 ・用途、デザイン、安全性、機能、環境への配慮など、車選びのポイントは多種多様であることに気付かせる。 ・広告等に掲載されている車両本体価格に加えて、税金や自賠責保険などの費用が上乗せされることを知らせる。 〔車の広告、ワークシート〕 ・自動車事故で想定されるリスクを考えさせ、保険に加入することの大切さを知らせる。 ・ローンは簡単に組めるが、実際に支払っていくことの大変さや、生涯を見通した経済計画の必要性について考えさせる。 ・自分のライフスタイルに合わせて収入、支出、貯蓄の計画を立てることの大切さを知らせる。 ・自動車購入のプロセスを振り返り、項目ごとに理解できたか自己評価させる。	○生涯を見通した経済計画の必要性を理解している。 【知識・理解】 〔観察、ワークシート、ペーパーテスト〕 ○自動車購入シミュレーションに積極的に取り組んでいる。 【関心・意欲・態度】 〔観察、ワークシート〕
まとめ 5分	・本時のまとめ ・次時の学習内容	・本時の学習の確認をする。 ・次時の学習内容を確認する。	・本日の授業から、自立した消費者として、生涯を見通しながら高額の買い物ができる力がついたことに自信をもって生活していくて欲しいことを伝える。 ・消費経済分野から食生活分野の学習になることを知らせる。	

農業科学習指導案（例）

日 時	平成〇〇年〇月〇日（〇）第〇校時
学 年・組	〇〇科 第〇学年〇組（男子〇名、女子〇名）
使用教科書	「農業と環境」（〇〇出版）
指 導 者	〇〇高等学校 教諭 〇 〇 〇 〇

1 単元

第3章 農業生産と環境保全の実践	2 たねまきの準備と苗づくり
------------------	----------------

2 単元の指導観

教材観	たねまきから収穫までに関わる栽培の基礎的な知識・技能を理解させるとともに、作物栽培や農業学習に対する興味関心を醸成し、自らの考えや判断に基づいて工夫しながらこれからの学習に取り組もうとする態度を育むことができる教材として、イネを取り上げた。イネは日本の基幹作物であり、栽培理論や方法が確立されており、作物の生育の仕組みと栽培技術について科学的根拠をもとに理解させるために適した素材である。 この単元では、イネの種子を用い、種子の形態と機能、発芽について理解させ、たねまきから育苗までを実習で体験させる。また、実験・観察では生徒に課題を与え考察させる活動を多く取り入れている。
学習者観	農業に対する漠然とした興味・関心や農業学習に対する期待は高いが、栽培の経験がない生徒がほとんどで、農業学習の意欲や態度を身に付けるために、非常に大切な時期である。 実験・観察等を主体的に体験してきた生徒が少なく、実験・実習等の場面で、作業を伴ったり考察をしたりする内容に興味が持てない。そのため、これらの学習の意義とプロジェクト学習の方法に関する指導が必要である。
指導方針等	農業学習の導入にあたる時期であるため、学習の意義や学習の方法に関する指導を十分に行う。実験・観察では、十分に考える時間を確保し、一人一人が考えをまとめて発表できるように配慮する。 また、「作物の性質」「栽培管理の仕組み」「作物を取り巻く環境条件」は相互に関連して栽培の基礎的な知識・技能が成立している。このことを踏まえ、これらが有機的に関連した理解が得られるように意識して指導する。

3 単元の指導目標

○イネのたねまきから育苗までの学習を通して、たねまきから育苗までの作物の形態と機能、栽培管理の仕組みの基礎的な事項を理解させるとともに、この時期の作物の状態や作物を取り巻く環境条件から、適切な判断で管理作業を行う基礎的な技術を身に付けさせる。 ○作物の栽培や農業学習に関心を持ち、生育の仕組みや栽培技術について科学的に捉えようとする、意欲的な学習態度を身に付けさせる。
--

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
① 種子の形態や発芽の様子、発芽と環境の関係に関心を持ち、調査・観察に意欲的に取り組むとともに、発芽や生育について科学的に捉えようとしている。 ② 科学的な根拠に基づき、たねまきの実習に意欲的かつ高精度に取り組もうとしている。 ③ 育苗管理の当番業務に責任を持って取り組もうとする態度が身に付いている。	① 発芽の実験では、実験の目的を考えて、適切に実験装置を準備し、種子の発芽状態を観察・診断する能力を身に付けている。 ② 作物の種類とたねまきをする環境に応じて、適切な用土の準備、たねまき法を判断する能力が身に付いている。 ③ 苗の生育状態を判断し、適切な管理を正確に表現でき、実施することができる。	① 選種の技能を身に付けている。 ② 種子の前処理の基礎的な技能と、たねまきに適した用土の準備についての基礎的な技能を身に付けている。 ③ たねまきと覆土、灌水の基礎的な技能を身に付けている。 ④ 育苗管理の基礎的な技能を身に付けている。	① 種子の構造と機能を理解するとともに、良い種子の条件、発芽の三要素、発芽と環境条件の関係について理解している。 ② たねまきの方法について知り、それぞれの方法の特徴と用途を理解している。 ③ 良い苗の特性を知り、適した育苗環境と管理作業の仕組みを理解している。

5 単元の指導計画及び評価計画（10時間） ※ 次程欄の□は本時

次 程	指導内容	○ねらい ■学習活動	評価の観点				評価方法等	
			関	思	技	知		
第1次 （1h・2h・1h）	1 選種 (1) 良い種子の条件	○たねまきの構造と良否を理解させる。 ■たねまきの形態や胚の観察を通して構造を調べ、種もみの外観や切断面をスケッチする。	①			①	授業時の観察 実験観察レポート	定期テスト【思・知・実習ノート】 【関・思・技】
	(2) 選種と発芽試験	○良い種子の条件を理解させ、選種に関連した技術を身に付けさせる。 ■種子の形態観察や比重選の実験、発芽試験を通して良い種子の条件や選種の方法を理解し、選種の技能を身に付ける。		①	①	①	授業時の観察 実験観察レポート	
	(3) 発芽の条件	○発芽の条件を理解させる。 ■発芽の状態を観察した実験結果から、発芽に適した環境条件を考察し、発芽の条件について考える。	①			①	授業時の観察 実験観察レポート	
第2次 （2h・	2 前処理とたねまき (1) 前処理	○前処理に関連した技術を身に付けさせる。 ■前処理の目的と方法を理解し、消毒・浸種・芽出し等の処理を行うとともに、次時のたねまきに備え、作物の種類と環境条件を勘案してたねまき法を判断し、適切な用土を準備する。		②	②		授業時の観察 実験観察レポート	

2 h	(2) たねまき	○たねもみの発芽の仕組みや発芽に適した環境条件について理解させる。 ■発芽の仕組みの理解に基づき、様々なたねまきの方法と用途について理解する。	②	③	②	授業時の観察 実験観察レポート
第3次 (1h・1h)	3 苗の育て方 (1) 苗の形態と良い苗の性質	○苗の形態、良い苗の特性について理解させる。 ■苗の形態を観察し、良い苗の特性を考察して、育苗期の管理の要点をまとめる。	③	④	③	授業時の観察 実験観察レポート
	(2) 育苗期の管理	○育苗期の管理に関連した技術を身に付けさせる。 ■苗の生育状態を判断し、灌水や追肥、温度管理等の管理作業を行う。	③	③		授業時の観察 当番日誌

6 本時の指導目標

- 1 選種の手順を理解し、たねもみの比重選ができる。
- 2 選種したたねもみの発芽試験の意味と手順を理解し、発芽試験の準備ができる。
- 3 選種を行う目的の理解に基づいて、発芽試験結果を予想することができる。

7 準備

各班・・・ピーカ、食塩、ざる（大・小）、比重計、シャーレ、ろ紙、洗淨びん、上皿天びん、かくはん棒、新聞紙、たねもみ
各自・・・実験観察レポート用紙、実験手順（配付資料）

8 学習指導の展開

段階	学習内容	学習活動	時間	教師の指導及び指導上の留意点	資料	授業中の評価
導入	・前時の復習 ・本時の目標と内容	・前時の内容を想起し、本時の目標と内容を理解する。	7分	・前時とのつながりの中で本時の実験があることを理解させる。 ・実験の目的と流れを理解させる。 ・あらかじめ用意した各種の比重液に鶏卵を浮遊させ、塩水の比重と浮力の概念を理解させるとともに、実験への興味を喚起する。	・前時の配付資料 ・比重選の実験手順（配付資料）	【知識・理解】 前時の内容を思い出し、本時の目的を理解している。（発問）
展開	1 比重液の調製	・比重液（塩水）を作る方法を理解する。 ・比重液をつくる。（別紙活動）	15分 15分	・班ごとに実験を行うのははじめてなので、器具の準備、使用方法を演示し、比重液の作成方法等を丁寧に説明する。また、班内の分担の指示をする。 ・比重液は各班2リットル準備させる。 ・机間指導を行い、内容の未理解者や消極的な取組の生徒を指導する。	・比重選の実験手順（配付資料）	【技能】 比重液の作り方を理解している。（発問） 【技能】 比重液の調製ができている。（観察）
	2 比重選	・比重選を行う。	13分	・たねもみは各班100g準備する。 ・塩水選の手順を演示し、手順を確実に理解させる。 ・実験に使用したたねもみは発芽試験にも使用することを説明し、大切に扱うように指導する。 ・早く終了した班からレポートをまとめさせる。		【技能】 手順にしたがって比重選を行っている。（観察）
	3 発芽試験	・発芽試験の目的を理解する。	5分	・比重選で浮いたたねもみと沈んだたねもみでは発芽率や発芽後の生育に違いがあるかに注目させる。また、選種をせずにたねまきをした場合について考えさせる。	・発芽試験の手順（配付資料）	【思考・判断・表現】 発芽試験の目的を理解している。（発問） 【思考・判断・表現】 発芽試験の手順と留意点を理解している。（発問）
		・発芽試験の手順と方法を理解する。	5分	・試験装置の準備を演示し、留意点を説明する。		
		・発芽試験の装置を準備する。（別紙活動）	10分	・机間指導を行い、未理解者や消極的な取組の生徒を指導する。		
		・使用器具の洗淨と後片づけを行う。（別紙活動）	10分	・準備が終了した班から塩水を回収し、器具の洗淨・片付けを行うよう指示する。 ・比重選に使用したたねもみは、沈んだものを新聞紙に広げ風乾することを指示する。 早く終了した班からレポートをまとめさせる。		
まとめ	・レポートのまとめ ・次時の予告	・本時のレポートをまとめる。 ・次時は発芽試験の結果の処理と観察を行うことを理解する。 ・毎日の観察と管理について理解する。	10分	・比重選、発芽試験についてレポートをまとめ、提出させる。 ・発芽の様子を毎日観察させるとともに、ろ紙が乾燥しないように管理していくことを指示する。		【知識・理解】 良い種子の条件を理解している。（レポート）
備考 クラスの状況等						

工業科学習指導案（例）

日 時	平成〇〇年〇〇月〇〇日（〇） 第〇校時
学 年・組	〇〇科 〇年〇組（男子〇〇名、女子〇〇名）
使用教科書	『機械工作』（〇〇出版）
指 導 者	〇〇高等学校 教諭 〇 〇 〇 〇

- 1 単元名 材料の機械的性質
- 2 単元の目標 材料の機械的性質に関する基礎的な知識と技術を習得させるとともに、各種の材料試験の原理や方法を理解させる。
- 3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
A 材料の機械的性質について関心を持ち、その試験方法及び試験結果について調べようとしている。	B 材料の機械的性質について思考を深め、各種の試験結果を適切に判断し、表現している。	C 各種の試験結果から、材料の機械的性質の特徴をつかみ、具体的な使用法や工夫について説明できている。	D 材料の基礎的・基本的な機械的性質と、さまざまな試験方法及びその試験結果について理解している。

4 単元の指導計画

	指導内容	学習活動	評価規準との関連				評価方法等
			A	B	C	D	
第1・2時	強さ ・引張強さ ・応力－ひずみ線図 ・圧縮強さ	・強さとは外力に耐える力であることを理解する。 ・軟鋼についての引張試験結果を分析し、鋼の特徴について理解する。 ・各種金属材料の引張試験の結果を調べ、強さを比較する。 ・圧縮強さの原理と試験方法を理解する。	○			○	・積極的に調べようとしているか観察する。 ・強さについてノートにまとめさせることにより理解度を把握する。
第3時	硬さ ・硬さと強さ ・硬さ試験	・硬い材料の性質について理解する。 ・硬さと強さの関係について理解する。 ・各種材料の硬さを調べ、比較する。 ・各種硬さ試験の方法を調べる。 ・各種硬さ試験の特徴を理解する。	○			○	・積極的に調べようとしているか観察する。 ・硬さについてノートにまとめさせることにより理解度を把握する。
第4時 （本時）	粘り強さ ・衝撃荷重 ・衝撃試験 ・もろさ（脆性） ・粘り強さ（靱性）	・衝撃荷重について理解する。 ・衝撃荷重で破壊しやすい材料と破壊しにくい材料を考える。 ・硬さ・強さと粘り強さの関係について理解する。 ・シャルピー衝撃試験について理解する。 ・機械部品や製品のもろさに対する工夫をワークシートにまとめる。			○	○	・粘り強さについてノートにまとめさせることにより理解度を把握する。 ・試験結果より材料の特徴をつかみ、使用法や工夫について説明できているかワークシートを使用し確認する。
第5時	疲れ強さ ・疲れ ・S－N曲線 ・疲れ限度 ・疲れ強さ ・摩耗 ・摩耗現象	・繰り返し荷重について理解する。 ・疲れの原理を理解する。 ・疲れ試験の方法を理解する。 ・S－N曲線について理解する。 ・硬さと疲れの関係について理解する。 ・疲れの実例を調べ、原因を考察する。 ・摩耗、摩耗現象について理解する。		○		○	・疲れについてノートにまとめさせることにより理解度を把握する。 ・疲れの原因を考察し、表現できているかワークシートを使用し確認する。 ・摩耗についてノートにまとめさせることにより理解度を把握する。
第6時	温度の影響 ・低温の場合 ・高温の場合 ・温度脆性	・低温では粘り強さの低下が問題になることを理解する。 ・低温における衝撃値の変化を調べる。（遷移温度） ・高温では小荷重でも変形が進むこと（クリープ現象）を理解する。 ・クリープ現象が問題になる部品はどのようなものがあるか調べる。	○			○	・積極的に調べようとしているか観察する。 ・温度の影響についてノートにまとめさせることにより理解度を把握する。

5 本時の題目 粘り強さ（第4時）

6 本時の目標 様々な材料の機械的性質や硬さと強さおよび粘り強さの関係について理解する。また、硬い材料に粘り強さを持たせるための方法を説明することができる。

7 本時の展開

本時の指導計画	配分	学習の内容	学習活動	指導上の留意点	評価
	導入 5分	・前時の復習と本時の学習内容の概略	・硬さと強さ（引張強さ）について復習する。 （硬い＝強い、軟らかい＝弱い）	・硬さと引張強さについてそれぞれ確認し、その後両者の関係についてグラフを用いて復習させる。	・硬さと引張強さの関係を理解している。 （知識・理解）
	展開1 25分	・材料に加わる荷重の種類について ・衝撃荷重で破壊しやすい材料と破壊しづらい材料について ・硬さと粘り強さの関係について ・鋼について、硬さと強さと粘り強さの関係について ・粘り強さの試験方法（シャルピー衝撃試験）について	・静荷重と動荷重（衝撃荷重）について、それぞれの実例を参考にしながら考える。 ・ゴムとガラスに衝撃荷重を加える（ハンマーで叩く）と、どうなるかを考え、粘り強さとは何かを理解する。 ・ゴムとガラスの硬さと粘り強さの関係について表にまとめる。 ・針金と金鋸の歯を使用し、曲げに対する強さを確認する。次にハンマーで叩き、それぞれの粘り強さを確認し、鋼についての強さ・硬さと粘り強さの関係を表にまとめる。 ・粘り強さを定まった試験方法により数値として表すことが必要であることを確認し、シャルピー衝撃試験の原理を理解する。 ・代表的な2種類の材料について衝撃試験の結果を計算し、比較する。	・衝撃荷重が加わったとき、材料はどうなるかを考えさせる。 ・同じ重さのおもりを静かに下ろしたときと上から落下させたときとの違いを説明する。 ・衝撃荷重でゴムとガラスがどの様になるか比較させる。 ・硬い＝もろい、軟らかい＝粘り強いということを理解させる。 ・硬い＝強い＝もろい、軟らかい＝弱い＝粘り強いということを理解させる。 ・強くて硬い材料ほど破壊に対して危険性があるということに気付かせる。 ・粘り強いという概念ではなく、数値が大切であることを伝える。強さ・硬さも同様であることも確認し、衝撃試験についてワークシートにまとめさせる。	・粘り強さについて正しく理解している。 （知識・理解） ・硬さと粘り強さの関係を正しく理解している。 （知識・理解） ・鋼の性質について正しく理解している。 （知識・理解） ・シャルピー衝撃試験の方法や結果から分かる材料の機械的性質の特徴を説明できている。 （技能）
	展開2 15分	・機械の部品や製品なされている工夫について	・硬くて強い材料に粘り強さをもたせるためにはどうすればよいかをワークシートに記入し発表する。 ・焼入れ、焼戻しによる方法 ・高周波焼き入れによる方法 ・2種類の材料を合わせる方法	・焼入れの方法や、2種類の材料をあわせる方法などに気付かせる。 ・身近な製品にどのようなものがあるか考えさせる。	・機械の部品や製品に粘り強さを持たせるための方法を説明できている。 （技能）
	まとめ 5分	・本時のまとめと次回の予告	・硬さと強さ及び粘り強さの関係について確認する。 ・粘り強さの試験方法であるシャルピー衝撃試験について確認する。	・机間指導を行い、ノートがまとめられているか確認する。 ・次回は疲れ強さについて学習することを伝える。	・材料の硬さと強さおよび粘り強さの関係について理解している。 （知識・理解）
備考		・クラスの様子：（省略） ・準備するもの：針金、金鋸の歯、ハンマー、ゴム、ガラス、超硬バイト			

商業科学習指導案（例）

日 時	平成〇〇年〇月〇日（〇）第〇校時
学 年・組	〇〇科 第〇学年〇組（男子〇名、女子〇名）
使用教科書	「ビジネス基礎」（出版社名）
指 導 者	〇〇高等学校 教諭 〇 〇 〇 〇

1 単元名 第1章 商業のガイダンス

2 単元の目標 商業を学ぶ目的と主体的な学び方、商業の学習分野と職業の関連を理解させるとともに、商業の学習への動機付けや卒業後の進路について考えることの意義を理解させる。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
① 商業を学ぶ目的と学び方について関心をもち、商業の専門性の基礎・基本の重要性やビジネスの諸活動を理解し、実践する能力や豊かな人間性を育むこと、商業の学習分野の概要、主体的な学び方及び専門的能力を身に付けることの重要性について探求しようとしている。	① 商業の専門性の基礎・基本の重要性やビジネスの諸活動を理解し、実践する能力や豊かな人間性を育むこと、商業の学習分野の概要、主体的な学び方及び専門的能力を身に付けることの重要性について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に判断し、導き出した考えを表現している。	① 商業の学習に関する資料を収集し、得られた情報のもつ意味を読み取り、整理することができる。	① 商業を学ぶ目的と学び方に関する基本的・基本的な知識を身に付け、商業における専門性の基礎・基本の学習の重要性やビジネスの諸活動を理解し、実践する能力や豊かな人間性を育むこと、商業の学習分野の概要、主体的な学び方及び専門的能力を身に付けることの重要性について理解している。
② 商業の学習分野と職業に関心をもち、商業の学習分野と職業との関連及び卒業後の進路について探求しようとしている。	② 商業の学習分野と職業の関連及び卒業後の進路について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現している。	② ビジネスに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動への適切な対応を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	② 商業の学習分野と職業に関する基本的・基本的な知識と技術を身に付け、商業の学習分野と職業との関連及び卒業後の進路を考えることの意義について理解している。

4 単元の指導計画

	ねらい・学習活動	評価の観点				評価方法
		関	思	技	知	
第1・2時	商業を学ぶ目的と学び方 ○ねらい 社会で活躍し、経済社会の発展に貢献するために、専門性の基礎・基本について学習し理解を深めさせる。商業を学ぶことを通して、ビジネスの諸活動を理解し、実践する能力や豊かな人間性を育ませる。商業の学習分野の概要、主体的な学び方及び専門的能力を身に付けることの重要性について理解を深めさせる。 □ビジネスを取り巻く環境の変化についてグループで調べる。 □ビジネスを取り巻く環境の変化について発表・他者の評価を行う。 □顧客ニーズの変化、経済のグローバル化、高度情報通信ネットワーク化、企業経営（戦略）などビジネスの変化を理解する。 □将来ビジネスの世界で生きるために必要とされている資質や能力について理解する。	①		①		・環境の変化に対応するための資料を収集し、得られた情報のもつ意味を読み取り、整理することができる。[ワークシート] ① ・社会の変化や環境の変化について自分の考えをまとめ発表する。[観察] ② ① ・商業の学習分野の概要、主体的な学び方及び専門的能力を身に付けることの重要性について理解している。[ワークシート]
第3時	商業を学ぶ目的と学び方 ○ねらい 商業の学習分野を理解し、商業を学ぶ目的と主体的な学び方についてガイダンスを行い、継続的な学びの中で専門的能力を身に付けることの重要性について考えを深めさせる。 □商業を学ぶ目的の一つであるビジネスの諸活動について理解する。 □ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行うために「豊かな人間性」や「創造性」とは何かをグループで討論する。 □「豊かな人間性」や「創造性」について討論した結果をまとめ、発表及び他者の評価を行う。 □ビジネスの諸活動の様々な取組から、「豊かな人間性」や「創造性」の大切さを理解し、基本的なビジネスの心構えについて考察する。	①	①			・「豊かな人間性」や「創造性」について、討論を通して基礎的・基本的な知識と技術を修得し、その思考を基に判断し、導き出した考えを表現している。[観察] ① ・「豊かな人間性」や「創造性」について理解している。[発表] ① ・ビジネスでは、倫理観や責任感をもつことや、主体性のある行動が重要であることを確認する。[ワークシート]
第4時（本時）	商業の学習分野と職業 ○ねらい 商業の学習と職業との関連や卒業後の進路などについてガイダンスを行い、今後どのように商業科目を学ぶのかについて基礎的・基本的な知識を身に付けさせ、商業の学習分野と職業との関連及び卒業後の進路を考えることの意義について理解させる。また、本校の教育課程や学科の特色を十分に理解させ、早い段階から進路意識の高揚を図る。					

☐ 学ぶ目標を自ら定めるなど、主体的な学び方について理解する。 ☐ 学校の教育課程について理解するとともに、商業の学習分野と職業の関連について理解する。 ☐ 卒業後の進路を考えることの意義について理解する。	②				・学ぶ目標を自ら定めるなど、主体的な学び方について理解している。〔ワークシート〕 ② ・商業の学習分野と職業との関連及び卒業後の進路について探求しようとしている。〔ワークシート〕 ・教育課程や学科の特色を十分に理解し、卒業後の進路について思考を深め、適切に判断し、導き出した考えを表現している。〔ワークシート〕 ② ・商業の学習分野と職業との関連及び卒業後の進路を考えることの意義について理解している。〔ワークシート〕
--	---	--	--	--	--

5 本時の題目 商業の学習分野と職業（第4時）

6 本時の目標 商業の学習と職業との関連や卒業後の進路などについてガイダンスを行い、今後、どのように商業科目を学ぶのかについて基礎的・基本的な知識を身に付け、商業の学習分野と職業との関連及び卒業後の進路を考えることの意義について理解を深める。また、本校の教育課程を理解し、卒業後の進路について思考を深める。

7 本時の展開

	学習の内容	学習活動	時間	指導上の留意点	評価
導入	・前時までの復習、確認	・前時の「豊かな人間性」や「創造性」についての発表を通して受けた自分たちへの評価や他者の発表を確認する。	5分	・ビジネスでは、倫理観や責任感をもつことや、主体性のある行動が重要であることを確認する。	
展開	・商業を学ぶ目的と学び方について	・なぜ、この学校へ進学したのか。この学校で何を目標としているのか。	10分	・机間指導をしながら、生徒がどのようにまとめているのかを観察し把握する。 ・悩んでいる生徒に対し支援を行う。 ・本校に入学後、何を目標そうとしていたのかを確認させ、専門科目への学習意欲を喚起させる。	【知識・理解】 ・自己を振り返りながら、学ぶ目標を自ら定めるなど、主体的な学び方について理解している。〔ワークシート〕 〔観察〕
	・学校の教育課程について ・商業の学習分野と職業の関連について	・本校のパンフレットや教育課程から本校の特色や特徴を理解する。	15分	・パンフレットや教育課程を基に、本校で学ぶ意義について説明し、商業を学ぶ目的を考察させる。 ・教育課程から必修科目、選択科目など、自己の進路実現を図るため、進路希望により履修科目を選択できることを説明する。 ・進路意識がまだ確立していない生徒に対し、進路目標を設定することの重要性について説明し、意識の高揚を図る。	【関心・意欲・態度】 ・商業の学習分野と職業との関連及び卒業後の進路について探求しようとしている。〔ワークシート〕
	・卒業生の進路について	・卒業生の進路について、進路の手引を活用して確認し、卒業後の進路を考察する。 ・どのようにすれば、進路実現ができるのかを考察する。	10分	・本校卒業後の進路について進路の手引を用いて進学・就職についての特徴を説明する。	【知識・理解】 ・商業の学習分野と職業との関連及び卒業後の進路を考えることの意義について理解している。〔ワークシート〕
まとめ		・本校での商業の学習分野と職業との関連及び卒業後の進路を考えることの意義について理解する。 ・次時の学習内容を確認する。	10分	・机間指導をしながら、ワークシートの進捗状況を確認し、卒業後の進路について思考を深められているか把握する。	【思考・判断・表現】 ・教育課程や学科の特色を十分に理解し、卒業後の進路について思考を深め、適切に判断し、導き出した考えを表現している。〔ワークシート〕
備考	・クラスの様子： ・準備するもの：ワークシート、学校のパンフレット、教育課程表、進路の手引				

福祉科（生活支援技術） 学習指導案（例）

日 時	平成〇〇年〇月〇日（〇）第〇校時
学 年 ・ 組	社会福祉科 第〇学年〇組（男子〇名、女子〇名）
使用教科書	「〇〇（教科書名）」（〇〇出版社（出版社名））
指 導 者	〇〇高等学校 教諭 〇 〇 〇 〇

1 単元名 「食事の介護」

2 単元の目標

食事の意義と、高齢者や障害者の自立及び快適な生活に向けた食事の在り方を理解させ、食事介護に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付けさせる。また、食事介護の望ましい在り方についての考えを深めさせるとともに、より安全で快適な食事介護を目指して意欲的に取り組む態度を養う。

3 単元の指導観

(1) 教材観

「食事」は生徒にとって身近な教材であり、興味関心を持って取り組むと思われる。生徒自身の食生活を振り返らせながら、食事の持つ意義を考えさせたい。また、食事介護では「食べもの」を取り扱うということから、介護する側の清潔についても再認識させたい。そして、利用者の自立と快適な生活のための、望ましい介護方法について考えさせたい。

(2) 指導観

介護者は利用者の生命を守り、安全・安楽に過ごせるような技術の提供をしなければならない。校内実習ではあるが、実際に利用者に接するようしっかりとした服装・態度で臨ませたい。また、高齢者の食事介護における誤嚥などの事故防止や緊急時の対処法についても十分理解させたい。

(3) 生徒観

専門科目に対する興味・関心が高く、積極的に授業に取り組む姿勢が伺える。男子が多く、クラスのまとまりもよいが、授業や校内実習にも慣れ、緊張感に欠ける生徒も見られるため、しっかりとした態度で授業に臨ませたい。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
食事の介護について関心を持ち、高齢者や障害者の自立と快適な生活のための、よりよい食事の介護を目指して意欲的に取り組んでいる。	食事の意義について考えを深め、高齢者や障害者の自立と快適な生活のための食事の介護に関する課題や望ましい在り方について考察し、その成果を的確に表現している。	高齢者や障害者の自立と快適な生活のための食事の介護に関して、基礎的・基本的な技術を身に付け、安全や快適さに配慮しながら適切に処理している。	食事の意義及び高齢者や障害者の自立と快適な生活へ向けた食事の在り方を理解し、食事の介護に関する基本的な知識を身に付けている。

5 単元の指導計画及び評価計画（12時間）

時	学習内容	評価計画【評価規準との関連】	評価方法
1 ・ 2 ・ 3 ・ 4	1 食事の意義と食事摂取の基礎知識 ○食べることの意義 ○食べることのメカニズム ○食事のアセスメント	○食べるということが生命の維持、健康の増進、病気の回復にとって重要であることを理解し、食事の意義について考えを深めている。【知】【思】 ○食べるということについて解剖生理学的に理解する。【知】 ○食事に関するアセスメントの方法を理解する。【知】	○参加態度・姿勢 ○学習プリント ○ペーパーテスト
5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	2 食事介護の実践と事故の予防 ○食事介護の原則 ○食材の購入から調理まで ○誤嚥・窒息の防止 ○脱水の徴候と予防	○食事介護の原則を理解し、その具体的な方法に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。【知】【技】 ○嚥下運動について理解し、誤嚥や窒息の予防法と対処法を身に付けている。【知】【技】 ○脱水の徴候と予防法について理解する。【知】	○参加態度・姿勢 ○学習プリント ○ペーパーテスト
9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 （□は本時）	3 食事介護（実習） ○座位での食事介助 ○仰臥位での食事介助 ○アイマスクをしての食事摂取 ○食事の形態 （常食、きざみ食、ムース状、流動食、とろみ水）	○利用者の状況に応じた安全・安楽な食事介護の在り方について考え、利用者に声を掛ける等の方法で反応を確かめながら介護している。【思】【技】 ○体位や食事の形態による嚥下の違いについて理解し、状況に合わせて適切に介助している。【知】【技】 ○高齢者や障害者の自立と快適な生活のための、よりよい食事の介護を目指して、周囲と意見交換を行いながら、意欲的に取り組んでいる。【関】	○参加態度・姿勢 ○学習プリント ○実習レポート

【関】＝関心・意欲・態度 【思】＝思考・判断・表現 【技】＝技能 【知】＝知識・理解

6 本時の指導

(1) 題 目 食事介護（実習）

(2) 目 標

体位や食事の形態による嚥下の違いについて理解させるとともに、利用者の状況に応じた安全・安楽な食事介護の在り方について考えさせ、適切な食事介護の方法を身に付けさせる。

(3) 準備物

食事（主食、主菜、副菜、飲み物各1品）、食器（食器類、箸、スプーン、フォーク、トレイ）、食事用エプロン、タオル、おしぼり、とろみ剤、アイマスク、学習プリント、実習レポート用紙

(4) 本時の展開（12時間のうちの第9、10時）

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価〔評価方法〕
導入 10分	食事介護の実習方法の確認 （必要物品、手順、留意点等の確認）	○本時の実習内容や方法を 確認する。	○事前にホワイトボードに方法等を整理して記載しておく。 ○補助教員が服装の確認をする。	
展 開 70分	①利用者の準備と配膳 ②ベッド上、仰臥位での介護 ③視覚障害者のベッド上、座位での介護 （アイマスク使用） ④ベッド上、座位で自力摂取（利き手は麻痺側とする） ⑤役割の交代	○利用者に介護内容を説明して、安楽で安定した体位をとらせる。 ○襟元にタオルを掛ける。 ○配膳をする。 ○おしぼりで利用者の手を拭く。 ○利用者に食事の内容を説明する。 ○誤嚥のないように一口の食事量や形態、摂食する際の姿勢等を考えながら介護をする。 ○食事の摂取状況を利用者に声をかけたり、観察したりして確認をしながら介護をする。 ○体験した内容と感想を学習プリントに記入する。 ○視覚障害がある人の適切な食事介護の在り方を考えながら食事介護をする。 ○食事の摂取状況を利用者に声をかけたり、観察したりして確認をしながら介護を進める。 ○体験した内容と感想を学習プリントに記入する。 ○利き手ではない方の手を使い、ペースや不自由さの克服方法等を考えながら食べる。 ○体験した内容と感想を学習プリントに記入する。 ○①～④の学習を、利用者と介護者の役割を交代して再度実施する。	○利用者役の生徒への準備の指導、及びそれ以外の生徒への配膳やその他の準備の指導を補助教員と分担して行う。 ○教員1人が5ベッド（5グループ）を担当し、巡回指導を行う。 ○介護を始める際、一口の食事量や形態、姿勢等のポイントを常に確認しながら介護するように促す。 ○利用者役の生徒に嚥下の状態を尋ねたり、介護するペースは適切かを確認したりするよう介護者役の生徒へ促す。 ○食事は普通食と刻み食、飲料水はそのままのものにとろみをつけたものを用意し、それぞれを体験させる。 ○介護を始める際に、食事内容の説明やクロックポジションを用いた食事の配置等の説明を適切に行うように促す。 ○利用者役の生徒に嚥下の状態を聞いたり、介護するペースは適切かを確認したりするよう介護者役の生徒へ促す。 ○利用者役以外の生徒には、食べるペースや不自由さをどう克服しているか等について観察するよう促す。 ○交代のタイミングを指示し、同じ活動を他方の生徒にもさせる。	○食事介護に必要な物品をそろえて適切に配置したり、食事をするための体位を整えたりしている。 【技能】〔観察〕 ○利用者の状況に応じた安全・安楽な食事介護の在り方について考え、利用者に声をかける等の方法で反応を確かめながら介護を行っている。 【思考・判断・表現】【技能】〔観察、プリント、レポート〕 ○体位や食事の形態による嚥下の違いについて観察や体験を通じて理解し、それらの状況に合わせた方法で介護を行っている。 【知識・理解】【技能】〔観察、プリント、レポート〕 ○利用者の障害の状況に応じた適切な食事介護の在り方について考え、利用者の食べるペースや反応を確かめたり、介護方法を工夫したりしながら介護を行っている。 【思考・判断・表現】【技能】〔観察、プリント、レポート〕
まとめ 20分	授業の振り返り	○利用者と介護者、それぞれの立場での感想を発表する。 ○実習レポートを記述し、提出する。	○各ベッド1名ずつ発表させる。 ○意見をまとめ、次の実習に生かし、つなげるように促す。	